

大山街道八王子道ウォーク

第13回 リコー前バス停から小野宮前バス停（計画）

集 合 本厚木駅改札口 午前9時20分

歩行距離 約10km。

第13回 リコー前バス停から小野宮前バス停

実施日 2022（令和4）年10月19日（水） 天候 曇り 気温 低め

参加者 折本 文雄、前北 勝司、中田 信義、伊藤 泰弘、中島 征雄 計 5名

コース 本厚木駅1番乗り場〔厚89〕鳶尾団地行8:55分⇒9:21リコー前バス停9:24～「大山街道」石柱（9:44）～日吉神社（9:45～49）～荻野新宿交差点～法界寺（9:52～58）～荻野川～矢名街道石柱（10:09）～庚申塔～富士塚碑（10:17）～千光寺（10:20）～弘徳寺（10:24～38）～（10:42）小鮎川～登山古墳群史跡公園（10:55～11:03）～ガスト・昼食（11:27～12:27）～白山神社（12:31）～恩曾川～愛名入口バス停13:18～堰神社（13:24～28）～衣塚（13:35）～（13:44）小野宮前バス停（13:56）⇒本厚木駅

写真は 2019（令和元）年12月3日と本日のものを使用。

GPS

歩行距離：9.9km。累計歩行距離 121.6km。

全体所要時間：4時間21分。移動時間：2時間41分。停止時間：1時間40分。

移動平均速度：3.7km/h。全体平均速度：2.27km/h。





小田急線本厚木駅改札口にいつものメンバーが集合時間より30分近く早く集まったので、予定より20分も早い8時55分の鳶尾団地行きのバスに乗った。リコー前バス停に9時21分に着き、9時24分に出発。



神奈川工科大学の前を通り県道63号線を進めと荻野新宿（おぎのしんしゅく）交差点の左手前の日吉神社の塀の脇に「大山街道」石柱がある。（9：44）



「大山街道」石柱には、『大山参りの一つの道として利用され、上依知～下川入～荻野～愛名～伊勢原へとつづき、この地は街道の要衝として宿場、市で栄えた。』と刻まれている。

荻野新宿交差点の北東角に「日吉神社」の鳥居があり、社殿はかなり奥にある。



「日吉神社」

日吉神社の祭神は大山咋命。境内西側は県道63号線の拡幅で削られている。旧名は山王権現。ご神体は帝釈天の像がある懸仏で慶安元年(1648)の銘があるという。明治三年(1870)現社名の改めた。

《注 『懸仏』御正体(みしょうたい)ともいう。銅などの円板に仏像を鑄たものを付けたり浮き彫りにしたもの。本地垂迹の関係から祭神の本体として神社にかけたことから御正体の名称が起ったと考えられ、神社に奉納する鏡に仏像が浮彫にしたのが古い形式であるといわれている。》

日吉神社は、妙見信仰の神社。社殿背後にあった大樹妙見松が枯れて根を掘ったところ毛利の3つの兜が出土したので、そこに「三兜大神」の石碑が建てられた。

毛利元就の毛利氏の祖は、公家の大江広元で、源頼朝から相模国毛利庄(現在の厚木市)を領地として与えられた。



交差点を渡り、下りとなる県道63号線の右側を120m程進むと右側に「法界寺」がある。

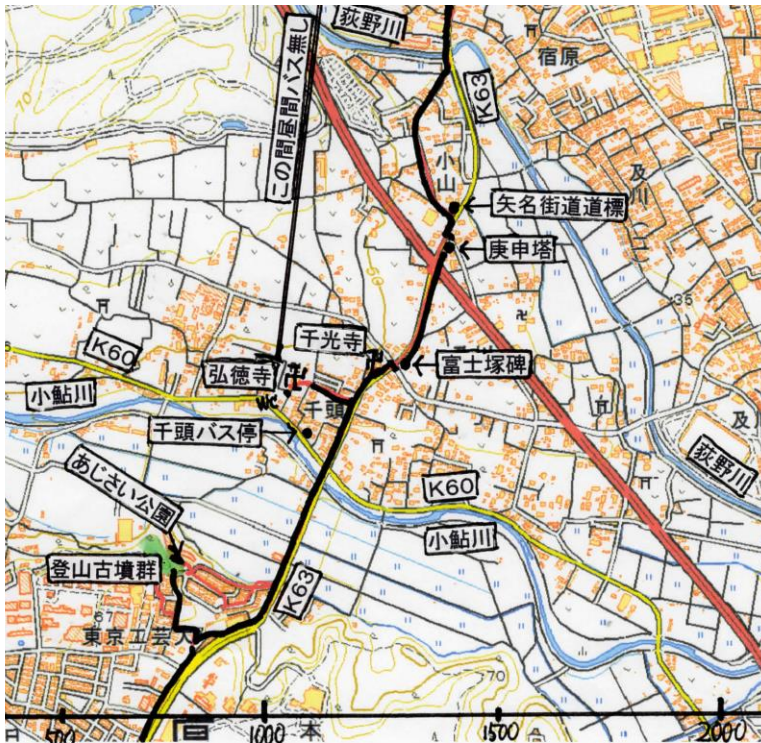


(9:52~58) トイレを借りる。



「法界寺」

無礙山円融院法界寺と号し、浄土宗の寺院。北条氏直が荻野郷の地頭松田康長に命じて造営したと伝えられる。秀吉の小田原攻めの際、兵火にかかり以前のような繁栄は失われたことが『相模国風土記稿』に記されているとのこと。



県道を下って進み、荻野橋で荻野川を渡る。橋から25m程で右の道に入り、直ぐ左へ曲がり旧道を道なりに左へカーブして進むと約360mで県道63号線に合流する。合流点左角に「矢名街道」石柱がある。(10:09)





「矢名街道」

矢名街道とは、武州八王子から大住郡矢名村（現秦野市）を経て小田原に向かった道のことで、上粕屋までは大山街道八王子道と同じ。

石柱には、『小田原道の一部として大住郡矢名村（現秦野市）へ通じる道の名称。江戸時代には八王子方面からの大山街道としてにぎわった。』とある。

30m程進んだ県道の左側の三叉路の角に道標を兼ねた「庚申塔」がある。



「庚申塔」は、かなり剥落が進んでおり、正面下部の三猿で庚申塔であることがわかる。

左面の「左〇〇〇 かすや道」がかろうじて読める。右面もほとんど剥落し「〇〇講中」しか読めない。



及川中原交差点で国道412号線を横切った先では右側遠くに大山が見える。

200m強先の次の信号交差点の左角に「富士塚碑」と「石碑」がある。（10：17）





「富士塚碑」には、『天下泰平 参明藤開山』とあり、傍らの石柱には『富士山の一部が噴火した際の降灰を集めて塚をつくったもので富士講の対象となっている』とある。

交差点の先右側に「千光寺」がある。(10 : 20)



「千光寺」

千光寺は、千頭山普門院と号し、宗派は高野山真言宗で、本尊は如意輪観音像。大同2年(807)に弘法大師が開基したと伝えられている。

50m程の右側の道を入った奥に「弘徳寺」がある。参道入口に「善鸞上人墳墓の寺」の石標がある。(10 : 24～38) トイレを借りる。



「弘徳寺」

弘徳寺は、浄土真宗本願寺派で親縁山心光院と号す。弘徳寺は親鸞聖人が巡錫した当地に、親鸞聖人の子善鸞上人が親縁山心光院と号して庵を創建したという。善鸞上人の弟子浄念が没後、(親鸞聖人の弟子で相馬四郎義清・信楽坊が創建した)茨城県岡田郷弘徳寺が兼帯していたという。文禄年間に入り、僧榮西(上杉五郎朝定・・・戦国時代の武将・扇谷上杉氏の最後の当主・・・の子)が、当地の領主内藤修理亮清成と謀り、弘徳寺の名跡を当地に移転、信楽坊を開基、榮西を中興開基と定めたという。慶安2年(1649)には幕府より寺領29石3斗の御朱印状を受領している。



荻野新宿からこの先の千頭橋際交差点までは昼間バス便はない。



県道63号線を150m進むと県道60号線と交差(千頭橋際交差点)し、その先にある小鮎川を千頭橋で渡る。橋から240m程進むと上り坂となり、右側を上る。170m程登ると右斜めに道があり、旧道らしいので入る。



左にカーブしながら登り、古墳がある「登山古墳群史跡公園」へ行くために、右に急に曲がり戻るように上る。直角に左に曲がり、50m程を右折。60m程のY字路は直進して住宅地の中を進むと登山古墳群史跡公園の入口がある。(10:55～11:03)



「登山（どうやま）古墳群」

1962年（昭和37年）に発見された古墳で、1号から5号までの5基の古墳がある。このうち、1号墳は発掘調査のために消滅し現存していない。全て円墳である。1号墳とその他の古墳では石室の構造や埋葬品が異なることから、身分の違うものがそれぞれ登山古墳に埋葬されたのではないかと推測されている。また、古墳の壁・埋葬品などから、5世紀に4号墳が、その後3号墳、2号墳、5号墳の順に造られたものと推測されといる。

1号墳から南東500mに登山古墳群史跡公園の2号墳から5号墳がある。

1号墳

直径約20mの円墳。6世紀半ば頃のものとは推定されている。昭和42年（1967）の発掘調査の際に削り取られ消滅している。

大量の形象埴輪・円筒埴輪の他、土師器の杯2個、須恵器一片、縄文土器片、ガラス玉が出土した。このうち形象埴輪・円筒埴輪の計84点他は、平成4年（1992）2月14日に神奈川県指定文化財に指定され、現在はあつぎ郷土博物館で保存されている。

2号墳

直径約13mで、横穴式石室を持つ。刀子・鉄の鏃が一つずつ出土したが、いずれも腐食が激しく、取り出しの際に破損した。

3号墳

直径約13mの楕円形円墳で、横穴式石室を持つ。出土品は無し。

4号墳

直径約20mで、竪穴式石室を持つ。石室内には、数メートルにわたり石が敷き詰められている。出土品は直刀片、刀子。

5号墳

直径約10mで、横穴式石室を持つ。石室はかなり激しい損傷を受けている。出土品は無し。

●各古墳データ

名称	古墳の形	古墳の大きさ (括弧書きは推定)	埋葬施設	周溝 (括弧書きは推定)	出土遺物		備考
					副葬品	その他	
1号墳	円墳	(20m)	不明	上幅(4.2m) 底幅(1.8m)	不明	埴輪 (人物、家形、動物、円筒)	墳丘は削平。 埴輪は一括県指定重要文化財(平成4年)
2号墳	円墳	15m	横穴式石室	全周 上幅 1.5m 底幅 0.5m	ガラス玉、鉄鍔破片		
3号墳	円墳(楕円形)	長径17m 短径15m	横穴式石室	一部 上幅 2m 底幅 1.5m	刀子破片		
4号墳	円墳	(30m)	竪穴式石室	不明	鉄刀破片、 刀子破片、鉄鍔	須恵器破片	
5号墳	円墳	(13m)	不明	1/2確認 上幅 1.5m 底幅 0.8m	刀子破片		



県道63号線に戻り台地上を1. km程の白山交差点の左側にガストがある。寄って昼食。
(11:27~12:27)



県道63号線は下りとなり、下り始めのU字に右に曲がる急坂を下る。すぐに白山神社がある。
(12:31)



坂は左カーブし益々急な坂となる。急坂を下りきり、突き当りを左折し、30m程を右折し、70m程の丁字路を左折し、170m程進むと県道63号線にぶつかるので右折する。



ハッ橋で恩曾川（おんぞがわ）を渡る。このあとは県道は緩やかに上り、住宅地で下りとなる。



途中、伊藤さんより「足の具合がよくない」との話があり、先のバス停でバスに乗りエスケープすることにした。13:09に着いた愛名入口バス停で伊藤さんは13:18の厚木バスセンター行きのバスに乗る。

伊藤さんと分かれて先に歩を進める。「愛名入口バス停」の先、右カーブする所で、頭上に道路標識があり、その道路標識の数メートル先の左の小道に入る。300m程進んだ左に「堰神社」がある。
(13:24~28) また、参道右側に「長谷人形座の碑」石碑がある。



「堰神社」祭神は水分神（みくまりのかみ）

長谷の堰神社の由来（厚木市の昔話より）

天正四年（1576）、当時の長谷村では5月から6月にかけて雨が一滴も降らず、旱魃で困っていた。水を引くため堰を高くあげようとしたが、工事が捗らず困っていたところ山伏が通りかかり、「自分は筑波山に住む桂坊というものだ。修行のため大山に登るところだが、このひどい水涸れを見捨てていけないので、修行が終わったらこの村に戻って力になろう」と言った。

次の日、戻ってきた山伏は、堰を完成させるには誰かが人柱の堰杭になることが必要で、自分が堰杭になると言い、着ている衣を脱いで川に入ってしまった。

村人たちは自分たちのために命を捨てた山伏を思って一生懸命工事に取り組み、堰を完成した。

以来、この村では水涸れはなくなって。村人たちは山伏の霊を祀って「桂敬山堰大明神」を建て長谷村の鎮守とした。山伏が脱いだ衣を埋めた衣塚が400m程西の水田の中にある。



戻り、県道63号線の手前で左折し、左カーブし60m程の信号の無い交差点を横切り、20m程で右折。100m程進んだ左手の田圃の中に「衣塚」がぽつんと立っている。





「衣塚」

長谷の堰神社由来の衣塚。塚跡は水田になっていて、大正に建てられた碑のみ残る。「不浄ヲ禁ズ 堰神社旧跡衣塚場」



ここから大山が良く見える。



道を右カーブして140m程で県道63号線に合流するので左折。右、左と曲がると県道603号線との交差点がある。交差点を右折し、県道63号・603号線を100程進むと今日のゴール「小野宮前バス停」がある。13時44分に到着。



13時56分発のバスで本厚木駅に出る。

以上